明治時代の松平春嶽

●会 場 松平家史料展示室

●会 期 平成25年9月11日(水)

~11月4日(祝)

●休館日 9月24日(火)

第16代藩主として福井藩の改革を進めただけでなく、幕末四賢公の一人として幕政改革に力を尽くした松平春嶽。彼は王政復古のクーデターを経て、新政府の一員として明治時代を迎えます。民部卿・大蔵卿などを歴任しますが、明治3年(1870)には公職から退き、隠居してしまいます。

その後は華族として天皇行幸の際などに随行し、第十五銀行や学習院の設立に関わります。また、『逸事史補』や『真雪草紙』など執筆活動も精力的に行っています。さらに、旧領福井の人々とも変わらぬ交流を続けています。

明治23(1890)年に亡くなるまでの春嶽の活発な活動を、越前松平家に伝えられた多くの資料から紹介します。

【明治時代における松平春嶽の主な活動】

年	月日	事項([] 内は出典、特に記載のない場合は『家譜』より引用)	関連展示資料
	1月17日	新政府の内国事務総督に就任する	議定職内国事務局輔任命の辞 令
慶応4年	6月27日	権中納言に任ぜられ、従二位に叙せられる	
〔明治元年〕	8月27日	明治天皇の即位の儀に出席する	
(1868)	9月7日	春嶽が新しい年号の候補をいくつか出し、その中から「明治」と決まる「逸事史補、岩倉公実記」	逸事史補
	9月8日	明治と年号を改める式(改元式)に出席する	
	5月15日	職務をすべて免ぜられ、民部官知事に就任する	
	5月21日	グリフィスが春嶽を来訪する	
	6月2日	明治天皇より春嶽、茂昭が永世禄一万石をいただく	
	7月8日	民部卿に任命される	民部卿任命の辞令
明治2年	8月11日	民部卿と大蔵卿を兼任する	
(1869)	8月24日	民部卿兼大蔵卿を免ぜられ、大学別当兼侍読に任命される	大学別当任命の辞令 松平春嶽筆矢島立軒宛書翰
	9月26日	王政復古時の貢献により、階級を一つ上げて正二位に叙せられる	叙正二位の位記
	10月29日	山内容堂、豊岡大学大監を招待して宴会を行う その席に大沼枕山らを呼び、その席で書画を揮毫させる	書画帖
HEN 0 F	3月22日	青松院(春嶽の生母)、勇子(妻)が東京へ移るため福井を出発、9日 東京着	
明治3年 (1870)	7月13日	役職を免ぜられ、麝香間祗候 (じゃこうのましこう:名誉職) となる これ以降公職から退く	
		この年『逸事史補』起筆(明治 12 年 9 月まで継続)[逸事史補]	逸事史補
明治4年	5月23日	青松院(春嶽の生母)死去	
(1871)	9月30日	初めて散髪をする	
11134 F AT	4月12日	真崎別邸が完成する	
明治 5 年 (1872)	8月25日	明治天皇から直衣(のうし)をいただく	白地冬引直衣
(1872)	9月12日	新橋-横浜間の鉄道開業式に、天皇のお供として参列する	
	5月30日	欧米を訪れていた大久保利通が帰国したため開かれた宴会に出席する	大久保卿帰朝に付御陪食宴記 事
1113/A C /T	6月18日	墓参のため福井へ向かう 29 日福井着	北行略日記一、越行日記六
明治 6 年 (1873)	7月9日~ 12日	三国に滞在、10日に札場半左衛門の陶器製造を見る	松平春嶽手造り三国焼盃
	7月26日	福井発 8月6日真崎邸へ帰着	
	12月19日	明治天皇が春嶽の真崎邸へお立ち寄りになる	真崎邸江行幸之記
明治7年 (1874)	4月8日	三国の有志が春嶽の像を寄付するため彫工の島雪斎を伴い上京、真崎 邸を訪問する	
(1874)	6月1日	華族会館設立に伴い、役員投票のため出席	
	1月17日	天皇の奈良・京都行幸の先発として出発する	滞西日録
	2月25日	真崎邸から小石川邸へ転居する	
	4月14日	西南戦争勃発に伴い、福井に書状を送り、志願兵募集に積極的に応じ るよう督励する	
WENT	5月18日	行幸先の京都から墓参のため福井へ向け出発する 福井では運正寺、瑞源寺等参拝し、各所を訪問する	
明治 10 年	6月6日	福井を出発 14 日に転居先の小石川邸へ到着	
(1877)	8月28日	春嶽の書いた手記などの整理を中根雪江に命じていたが、整理が完了する	
	10月3日	中根雪江死去	
	10月17日	華族学校(後の学習院大学)開業式に参列し祝詞を朗読する	
	12月8日	第十五国立銀行開業式に出席する[礫川文藻]	
	12月9日	西南戦争で戦死した旧臣の招魂祭を行う	



『逸事史補』



位記「正二位」



天賜 白地冬引直衣



松平春嶽手造り 三国焼盃

1 日 日 実施総を売却する 6月6日 第十五銀行への出資に関し、松平一族に通知し調整を行う 御泉水郎の部号を「溶巣環外土地の上頭・大学校を継条することととなり、名称を尊談がちつ適んだ ヤッシ
明治 11 年 (1878)
明治 14年 (1878)
(1878) 7月 24日
10月12日 神泉木郎の邸号を「洛恩閣」と名づけ、揮毫する 1月29日 明治下墓より「徳川八典殿」の編纂を命ぜられ、それに伴い伊達宗城、地田茂政大郎 1月29日 東京地学協会に出席し入会する 1月3日 東京地学協会に出席し入会する 1月3日 「逸事史補」完結 逸事史補 10月9日 橋本左内没後20年の式のため、祭文を書く 1月3日 「逸事史補」見筆(明治 16年まで継続) 真雪草紙 10月9日 橋本左内没後20年の式のため、祭文を書く 1月3日 女命処更・大久保一翁・勝安芳・福澤諭吉・和田儷郎を招く [礫川文業] 勝海舟書画額 4月3日 女命処更・大久保一翁・勝安芳・福澤諭吉・和田儷郎を招く [礫川文業] 勝海舟書画額 4月5日 全国に鉄道を敷設する鉄道会社設に対し出資を行う 1月2日 佐住枝遅越舎津存のため福井へ向け出着を月23日帰着 7月16日 敷二等に叙せられ、旭日重光章をいただく 明治 15年 (1882) 1月27日 2月12日 中海流域上に福井県が14年2月に再置県されたため、福井県や石黒務 大阪全主経済・徳川礼典録を献上したことに満足であるとのお言葉 天陽花瀬 2月12日 東京在住の旧臣を招き、勲章拝受の祝宴を開く 4月29日 東京在住の旧臣を招き、勲章拝受の祝宴を開く 4月29日 東京在住の旧臣を招き、勲章拝受の祝宴を開く 4月29日 東京在住の旧臣を招き、勲章拝受の祝宴を開く 4月3日 「廣全上が男子を出産、慶光と名づける(後に慶民と改名) 4月29日 東京在住の旧臣を招き、勲章拝受の祝宴を開く 4月3日 「原金上が男子を出産、慶光と名づける(後に慶民と改名) 第4月4日 「南国中村綾において開催の動前人の慰袋会に参加する 10月16日 「実雪草紙」下の目のを前介の影響を選集することとなり、記録の提出を求められ、12部74冊を提出する 10月16日 「実雪草紙」「関係の動前人の慰袋会に参加する 10月19日 「関窓乗筆」起筆(11月26日稿了) 関窓乗筆 起籍 (11月26日稿7) 関窓乗筆 起籍 (11月26日稿7) 日第3月1日 郷泉高正大・松浦詮と共に学習院を帝立とするよう建言書を提出する (後に学習院は育立となる) 4月23日 小塚原に橋本左内の石碑を建てるための補助として200円寄贈する 1月21日 御泉水郎の呼び名を養活館と改める 7年8歳日とひの 7年8歳日後写真 1月21日 7年8歳日後で名を養活館と改める 7年8歳日に存むと訂 7年8歳日後写真 7年8歳日後記書 7年8歳日後記書 7年8歳日後記書 7年8歳日後記書 7年8歳日後記書 7年8歳日後記書 7年8歳日後記書 7年8歳日後記書 7年8歳日後記書 7年8年8年8年8年8年8年8年8年8日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日
10月12日 御泉水郎の彫号を「浴恩閣」と名づけ、揮毫する 1月29日 明治天皇より「徳川礼典録」の編纂を命ぜられ、それに伴い伊達宗城、 徳田茂政が来郎 東京地学館会に出席し入会する 9月18日 「逸事史補」完結 25年
明治 12 年 (1879)
明治 12 年 (1879)
明治 12 年 (1879) 4 月 26 日 東京地学協会に出席し入会する 9 月 18 日 「逸事史補」 52 年 10月 9日 18 日 「逸事史補」 52 年 (1880) 明治 13 年 (1881) 明治 13 年 (1881) 明治 14 年 (1881) 明治 14 年 (1881) 明治 15 年 (1881) 1 月 27 日 佐住校超社参拝のため相外であり出資を耐く (弾川文藻) 勝海舟書扁額 1 月 27 日 明治 15 年 (1882) 明治 15 年 (1882) 明治 15 年 (1882) 明治 16 年 (1883) 明治 17 年 (1883) 明治 17 年 (1884) 月月 1 日 東京地学協会 (189 古 189 古 189 世 18
(1879) 9月18日 10月9日 標本左内没後20年の式のため、祭文を書く 10月9日 標本左内没後20年の式のため、祭文を書く (1880) 明治 13年 (1880) 明治 14年 (1881) 明治 14年 (1881) 明治 14年 (1881) 明治 15年 (1882) 明治 15年 (1882) 明治 15年 (1882) 明治 15年 (1883) 1月 27日 一時消滅した福井県が14年2月に再催県されたため、福井県令石黒務へれ文を送る 3月13日 側室ふど明子を出産、慶光と名づける(後に慶民と改名) 4月29日 東京在住の旧臣を招き、勲章拝受の祝宴を開く 3月3日 側室ふど明子を出産、慶光と名づける(後に慶民と改名) 4月29日 東京在住の旧臣を招き、勲章拝受の祝宴を開く 3月3日 一時消滅した福井県が14年2月に再催県されたため、福井県令石黒務へれ文を送る 3月18日 一年消滅した福井県が14年2月に再催県と改名) 4月29日 東京在住の旧臣を招き、勲章拝受の祝宴を開く 4月29日 東京在住の旧臣を招き、勲章拝受の祝宴を開く 10月16日 京雪華紅 総前市所在)に石灯電1対、体育会(福井の士族が剣柔術演習のため開いた道場)に70円を寄付する 4月14日 両国中村楼において開催の越前人の懇親会に参加する 2内16日 百月16日 真雪華紅 6百円10月19日 「関窓乗筆」起筆(11月26日稿丁) 異常年紙 7月4日 1月3日 この日新年初の揮毫[礫川文藻 1月23日 郷京乗筆 1月23日 1月33日 1月34日 1月
明治 13 年 10月9日 橋本左内没後20年の式のため、祭文を書く 3月14日 10月9日 橋本左内没後20年の式のため、祭文を書く 3月14日 1頁雪草紙 起筆(明治 16年まで継続) 真雪草紙 根倉松叟・大久保一翁・勝安芳・福澤論吉・和田儀郎を招く [礫川文藻] 勝海舟書扁額 4月5日 全国に鉄道を敷設する鉄道会社設置に対し出資を行う 5月17日 佐佳枝翅社参拝のため福井へ向け出発 6月23日帰着 7月16日 勲二等に叙せられ、旭日重光章をいただく 明治 15年 1月27日 明治天皇に拝謁、徳川礼典録を献上したことに満足であるとのお言葉をいただき、花穂一対をいただく 明治天皇に拝謁、徳川礼典録を献上したことに満足であるとのお言葉をいただき、花穂一対をいただく 一時消滅した福井県が 14年2月に再置県されたため、福井県令石黒務 7規29日 東京在住の旧臣を招き、敷章拝受の祝宴を開く 4月29日 東京在住の旧臣を招き、敷章拝受の祝宴を開く 1年99 1年9 1
明治 13 年
明治 13 年 (1880)
(1880) 4月3日 板倉松叟・大久保一翁・勝安芳・福澤諭吉・和田儀郎を招〈[礫川文藻] 勝海舟書扁額 4月5日 全国に鉄道を敷設する鉄道会社設置に対し出資を行う 5月17日 佐柱枝超社参拝のため福井へ向け出発 6月23日帰着 7月16日 敷二等に叙せられ、旭日重光章をいただ〈 明治天皇に拝謁、徳川礼典録を献上したことに満足であるとのお言葉をいただき、花瓶一対をいただ〈 2月12日 明光天皇に拝謁、徳川礼典録を献上したことに満足であるとのお言葉をいただき、花瓶一対をいただ〈 2月12日 東京在住の旧臣を招き、敷章拝受の祝宴を開〈 4月29日 東京在住の旧臣を招き、敷章拝受の祝宴を開〈 4月29日 東京在住の旧臣を招き、敷章拝受の祝宴を開〈 8月8日 第年神社(越前市所在)に石灯籠1対、体育会(福井の土族が剣柔術演習のため開いた遺場)に70円を寄付する 4月14日 阿国中村楼において開催の越前人の懇親会に参加する宮内省で維新前後の史料を蒐集することとなり、記録の提出を求められ、12部74冊を提出する 10月19日 「関窓乗筆」起筆(11月26日稿了) 関窓乗筆 1月23日 第6年初の揮毫[礫川文藻] 大平春嶽筆「鶴舞千年云々の書幅 1月23日 散髪し、九段坂下撮影師鈴木真一方にて写真を撮影する[礫川文藻] 松平春嶽筆「鶴舞千年云々の書幅 1月23日 前宮間記書記書を提出する(後に学習院は官立となる) 3月1日 散髪し、九段坂下撮影師鈴木真一方にて写真を撮影する[礫川文藻] 松平春嶽年「鶴舞千年云々の書幅 5月9日 同窓別話」起筆(18年5月30日稿了) 雨窓関話 8月21日 御泉水邸の呼び名を養治館と改める 扇室して正三位と訂 秀康公の官位をこれまで従三位としていたのを、調査して正三位と訂
明治14年 (1881) 4月5日 全国に鉄道を敷設する鉄道会社設置に対し出資を行う 5月17日 佐住枝廼社参拝のため福井へ向け出発 6月23 日帰着 7月16日 敷二等に叙せられ、旭日重光章をいただく 1月27日 明治天皇に拝謁、徳川礼典録を献上したことに満足であるとのお言葉 徳川礼典録 そいただき、花瓶一対をいただく 2月12日 一時消滅した福井県が14年2月に再置県されたため、福井県令石黒務 へ祝文を送る 3月13日 側室ふじが男子を出産、慶光と名づける(後に慶民と改名) 4月29日 東京在住の旧臣を招き、敷章拝受の祝宴を開く 8月8日 壬午事変 (朝鮮国内における兵士の反乱) に対し、日本としてどのように対処すべきか意見書を記す 3月6日 藤垣神社 (越前市所在) に石灯籠1対、体育会 (福井の士族が剣柔術演習のため開いた道場) に70円を寄付する 4月14日 両国中村楼において開催の越前人の懇親会に参加する 「宮内省で維新前後の史料を蒐集することとなり、記録の提出を求められ、12部74冊を提出する 10月19日 「真雪草紙」稿了 10月19日 「関窓乗撃」起筆 (11月26日稿了) 関窓乗筆 1月23日 公の日新年初の揮毫 [礫川文藻] 松平春嶽筆「鶴舞千年云々の書幅 1月23日 大松浦詮と共に学習院を帝立とするよう建言書を提出する(後に学習院は官立となる) 3月1日 散髪し、九段坂下撮影師鈴木真一方にて写真を撮影する [礫川文藻] 松平春嶽等「鶴舞千年云々の書幅 1月23日 「雨窓関話」起筆(18年5月30日稿了) 雨窓関話 8月21日 御泉水邸の呼び名を養活館と改める 9月17日 秀康公の官位をこれまで従三位としていたのを、調査して正三位と訂
明治14年 (1881)
7月16日 勲二等に叙せられ、旭日重光章をいただく
明治15年 (1882)
明治15年 (1882) 3月12日
明治 15 年 (1882) 2 月 12 日
明治 15 年 (1882)
1882 3月13日 側室ふじが男子を出産、慶光と名づける(後に慶民と改名) 4月29日 東京在住の旧臣を招き、勲章拝受の祝宴を開く 8月8日 壬午事変(朝鮮国内における兵士の反乱)に対し、日本としてどのように対処すべきか意見書を記す 藤垣神社(越前市所在)に石灯籠1対、体育会(福井の士族が剣柔術演習のため開いた道場)に70円を寄付する 7月4日 両国中村楼において開催の越前人の懇親会に参加する 宮内省で維新前後の史料を蒐集することとなり、記録の提出を求められ、12部74冊を提出する 10月19日 「関窓乗筆」起筆(11月26日稿了) 関窓乗筆 起筆(11月26日稿了) 関窓乗筆 日月3日 この日新年初の揮毫 [礫川文藻] 松平春嶽筆「鶴舞千年云々の書幅 1月23日 鍋島直大・松浦詮と共に学習院を帝立とするよう建言書を提出する(後に学習院は官立となる) 3月1日 散髪し、九段坂下撮影師鈴木真一方にて写真を撮影する [礫川文藻] 松平春嶽肖像写真 4月23日 小塚原に橋本左内の石碑を建てるための補助として200円寄贈する 5月9日 「雨窓関話】起筆(18年5月30日稿了) 雨窓関話 8月21日 御泉水邸の呼び名を養浩館と改める 5月9日 「雨窓関話】起筆(18年5月30日稿子) 雨窓関話 8月21日 御泉水邸の呼び名を養浩館と改める 5月5日 万康公の官位をこれまで従三位としていたのを、調査して正三位と訂
4月29日 東京在住の旧臣を招き、勲章拝受の祝宴を開く 8月8日 壬午事変 (朝鮮国内における兵士の反乱) に対し、日本としてどのように対処すべきか意見書を記す 3月6日 藤垣神社 (越前市所在) に石灯籠 1 対、体育会 (福井の士族が剣柔術演習のため開いた道場) に70円を寄付する 4月14日 両国中村楼において開催の越前人の懇親会に参加する 7月4日 宮内省で維新前後の史料を蒐集することとなり、記録の提出を求められ、12部74冊を提出する 10月19日 「関窓乗筆」起筆 (11月26日稿了) 関窓乗筆 松平春嶽筆「鶴舞千年云々の書幅 1月23日 郷島直大・松浦詮と共に学習院を帝立とするよう建言書を提出する (後に学習院は官立となる) 3月1日 散髪し、九段坂下撮影師鈴木真一方にて写真を撮影する [礫川文藻] 松平春嶽(海野) 松平春嶽(本平春嶽) 4月23日 小塚原に橋本左内の石碑を建てるための補助として200円寄贈する 5月9日 「雨窓閑話」起筆 (18年5月30日稿了) 雨窓閑話 8月21日 御泉水邸の呼び名を養浩館と改める 9月17日 秀康公の官位をこれまで従三位としていたのを、調査して正三位と訂
8月8日 壬午事変 (朝鮮国内における兵士の反乱) に対し、日本としてどのように対処すべきか意見書を記す
明治 16年 (1883)
明治 16年 (1883) 3月6日 藤垣神社(越前市所在)に石灯籠1対、体育会(福井の士族が剣柔術 演習のため開いた道場)に70円を寄付する
明治 16年 (1883) 18
明治 16 年 (1883) 4月14日 両国中村楼において開催の越前人の懇親会に参加する
明治 16年 (1883)
7月4日 「日本経 新川後の史料を鬼集することとなり、記録の提出を水められ、12 部 74 冊を提出する 10月16日 『真雪草紙』稿了 10月19日 『関窓乗筆』起筆(11月26日稿了) 関窓乗筆 1月3日 この日新年初の揮毫 [礫川文藻] 松平春嶽筆「鶴舞千年云々の書幅 1月23日 鍋島直大・松浦詮と共に学習院を帝立とするよう建言書を提出する(後に学習院は官立となる) 3月1日 散髪し、九段坂下撮影師鈴木真一方にて写真を撮影する [礫川文藻] 松平春嶽肖像写真 4月23日 小塚原に橋本左内の石碑を建てるための補助として200円寄贈する 5月9日 『雨窓閑話』起筆(18年5月30日稿了) 雨窓閑話 起第12日 御泉水邸の呼び名を養浩館と改める 9月17日 秀康公の官位をこれまで従三位としていたのを、調査して正三位と訂
10月16日 『真雪草紙』稿了 真雪草紙 稿了 10月19日 『関窓乗筆』起筆(11月26日稿了) 関窓乗筆 松平春嶽筆「鶴舞千年云々の書幅 1月3日 この日新年初の揮毫 [礫川文藻] 松平春嶽筆「鶴舞千年云々の書幅 1月23日 鍋島直大・松浦詮と共に学習院を帝立とするよう建言書を提出する(後に学習院は官立となる) 3月1日 散髪し、九段坂下撮影師鈴木真一方にて写真を撮影する [礫川文藻] 松平春嶽肖像写真 4月23日 小塚原に橋本左内の石碑を建てるための補助として 200 円寄贈する 5月9日 『雨窓閑話』起筆(18年5月30日稿了) 雨窓閑話 起筆(18年5月30日稿了) 雨窓閑話 日東水邸の呼び名を養浩館と改める 9月17日 秀康公の官位をこれまで従三位としていたのを、調査して正三位と訂
10月19日 「関窓乗筆」起筆(11月26日稿了) 関窓乗筆 1月3日 この日新年初の揮毫 [礫川文藻] 松平春嶽筆「鶴舞千年云々の書幅 1月23日 鍋島直大・松浦詮と共に学習院を帝立とするよう建言書を提出する(後に学習院は官立となる) 3月1日 散髪し、九段坂下撮影師鈴木真一方にて写真を撮影する [礫川文藻] 松平春嶽肖像写真 4月23日 小塚原に橋本左内の石碑を建てるための補助として 200 円寄贈する 5月9日 『雨窓閑話』起筆(18年5月30日稿了) 雨窓閑話 8月21日 御泉水邸の呼び名を養浩館と改める 9月17日 秀康公の官位をこれまで従三位としていたのを、調査して正三位と訂
1月3日 この日新年初の揮毫 [礫川文藻] 松平春嶽筆「鶴舞千年云々の書幅 1月23日 鍋島直大・松浦詮と共に学習院を帝立とするよう建言書を提出する(後に学習院は官立となる) 3月1日 散髪し、九段坂下撮影師鈴木真一方にて写真を撮影する [礫川文藻] 松平春嶽肖像写真 4月23日 小塚原に橋本左内の石碑を建てるための補助として 200 円寄贈する 5月9日 『雨窓閑話』起筆(18 年 5 月 30 日稿了) 雨窓閑話 8月21日 御泉水邸の呼び名を養浩館と改める 9月17日 秀康公の官位をこれまで従三位としていたのを、調査して正三位と訂
明治 17年 (1884) 1月3日 この日新年初の揮毫 [礫川文藻] 松平春嶽筆「鶴舞千年云々の書幅 明治 17年 (1884) 3月1日 散髪し、九段坂下撮影師鈴木真一方にて写真を撮影する [礫川文藻] 松平春嶽肖像写真 4月23日 小塚原に橋本左内の石碑を建てるための補助として 200 円寄贈する 5月9日 『雨窓閑話』起筆 (18年5月30日稿了) 雨窓閑話 8月21日 御泉水邸の呼び名を養治館と改める 9月17日 秀康公の官位をこれまで従三位としていたのを、調査して正三位と訂
明治 17年 (1884) 明治 17年 (1884) 明治 17年 (1884) 日 1月 23日
1月23日
1月23日 に学習院は官立となる) 3月1日 散髪し、九段坂下撮影師鈴木真一方にて写真を撮影する[礫川文藻] 松平春嶽肖像写真
明治 17年 (1884) 3月1日 散髪し、九段坂下撮影師鈴木真一方にて写真を撮影する [礫川文藻] 松平春嶽肖像写真 4月23日 小塚原に橋本左内の石碑を建てるための補助として 200 円寄贈する 5月9日 『雨窓閑話』起筆 (18年5月30日稿了) 雨窓閑話 8月21日 御泉水邸の呼び名を養浩館と改める 9月17日 秀康公の官位をこれまで従三位としていたのを、調査して正三位と訂
明治 17年 (1884) 4月 23日 小塚原に橋本左内の石碑を建てるための補助として 200 円寄贈する 5月 9日 『雨窓閑話』起筆(18年 5月 30 日稿了) 雨窓閑話 8月 21日 御泉水邸の呼び名を養浩館と改める 9月 17日 秀康公の官位をこれまで従三位としていたのを、調査して正三位と訂
(1884) 5月9日 『雨窓閑話』起筆(18年5月30日稿了) 雨窓閑話 8月21日 御泉水邸の呼び名を養治館と改める 9月17日 秀康公の官位をこれまで従三位としていたのを、調査して正三位と訂
8月21日 御泉水邸の呼び名を養浩館と改める 9月17日 秀康公の官位をこれまで従三位としていたのを、調査して正三位と訂
秀康公の官位をこれまで従三位としていたのを、調査して正三位と訂
10月4日 佐々木長淳二男である三六に依頼した肖像画が完成 [礫川文藻] 松平春嶽肖像画
明治18年 4月21日 桜谷神社を三国神社と改称するにあたり、その額字を揮毫し送る
(1885) 11月22日 小塚原の橋本左内碑が落成、申告祭に出席する
8月11日 『前世界雑話稿』執筆 前世界雑話稿
明治 19年 9月 29日 福井県令石黒務の求めに応じて、敦賀の金崎隧道の額字を揮毫して送る
(1886) 10月5日 側室ふじが男子を出産、錦之丞と名づける(後に尾張徳川家の養子と
10万5日 なり徳川義親と改める)
12月20日 関口町120番地に別邸を新築、移転式を行う(転居は翌年4月28日)
明治20年 1月6日 妻勇子死去する
TDV 04 を 1日1日 支援の動力により *** 大阪アー公園で加います。 「いにしへに云々」の和歌「明
明治 21年 1月 17日 春嶽の勲功により、茂昭に侯爵を授けられる 治維新云々」の詩の対幅
(1888) 9月7日 従一位に叙せられる 叙従一位の位記
あります 憲法研究会開設に伴い、参加の勧誘を受けていたが、この日開催され または違ん
3月7日 た会に出席する 憲法論
5月21日~ 背部凝聚、嘔吐、下痢等の病状があり重篤となるも、病状は軽減・安
明治 22 年 28 日 定する
(1889) 松平表崇動一等旭日大綬音動訂
(1889) 6月3日 動一等に叙せられ 旭日大綬章を授与される 松平春嶽勲一等旭日大綬章勲訂
(1889) 6月3日 勲一等に叙せられ、旭日大綬章を授与される 松平春嶽勲一等旭日大綬章勲記 松平春嶽東一等旭日大綬章 太平春嶽東一等旭日大綬章 大日本帝国憲法発布記令章
(1889) 6月3日 熟一等に叙せられ、旭日大綬章を授与される 松平春嶽勲一等旭日大綬章勲記 松平春嶽宛勲一等旭日大綬章 11月29日 憲法発布記令章を授与される 大日本帝国憲法発布記念章
(1889) 6月3日 勲一等に叙せられ、旭日大綬章を授与される 松平春嶽勲一等旭日大綬章 松平春嶽宛勲一等旭日大綬章 大日本帝国憲法発布記念章 授与之証
(1889) 6月3日 勲一等に叙せられ、旭日大綬章を授与される 松平春嶽勲一等旭日大綬章 松平春嶽宛勲一等旭日大綬章 大日本帝国憲法発布記念章 授与之証 11月29日 憲法発布記念章を授与される 大日本帝国憲法発布記念章 授与之証 2月1日 武田正規を渡辺洪基のところへ遣わし、約束を違えて『逸事史補』を
(1889) 6月3日 勲一等に叙せられ、旭日大綬章を授与される 松平春嶽勲一等旭日大綬章 松平春嶽宛勲一等旭日大綬章 大日本帝国憲法発布記念章 大日本帝国憲法発布記念章 授与之証 11月29日 憲法発布記念章を授与される 大日本帝国憲法発布記念章 授与之証 2月1日 武田正規を渡辺洪基のところへ遣わし、約束を違えて『逸事史補』を他人に見せた件について尋問する
(1889) 6月3日 勲一等に叙せられ、旭日大綬章を授与される 松平春嶽勲一等旭日大綬章 松平春嶽宛勲一等旭日大綬章 大日本帝国憲法発布記念章 技与之証 11月29日 憲法発布記念章を授与される 大日本帝国憲法発布記念章 授与之証 明治23年 (1890) (1890) 4月16日 上京中の福井尋常中学校校長及び学生と面会する
(1889) 6月3日 勲一等に叙せられ、旭日大綬章を授与される 松平春嶽勲一等旭日大綬章 松平春嶽宛勲一等旭日大綬章 大日本帝国憲法発布記念章 授与之証 明治23年 2月1日 武田正規を渡辺洪基のところへ遣わし、約束を違えて『逸事史補』を他人に見せた件について尋問する 4月16日 上章中の福井尋常中学校校長及び学生と面会する





天賜 花瓶



松平春嶽肖像画



勲一等旭日大綬章

次回の展示 松平家史料展示室

テーマ展 武家文書の世界

11月6日~12月26日

松平家史料展示室 展示解説シート No.77 平成25年9月11日発行

福井市立郷土歴史博物館

〒910-0004 福井市宝永3丁目12-1 電話 (0776)21-0489 FAX(0776)21-1489 担当 田中伸卓

印刷 宮本印刷